発表要旨集
Abstracts

【講演】

1. 田辺 和子（公益財団法人中村元東方研究所・連携研究員）

南方仏教研究
――タイの仏教を中心にして――

タイ国にはパーリ語の三蔵経典を拠り所とする仏教サンガが存在し、タイ国王は仏教を尊崇し、国内には王室寺院も多く存在する。タイ仏教寺院では、重要行事の授戒式や布薩は寺院内の布薩堂で行われる。布薩堂内の様子及び布薩堂を結界する結界石と御堂結界の儀式を説明する。アユタヤー期葬儀本と読誦経文について報告し、カティナ衣布施祭りも紹介する。

【研究発表】

2. 坂 英世（愛知学院大学非常勤講師）

規則動詞と不規則動詞
――パーリ語動詞組織再考――

パーリ語の動詞組織については、かつて Edgerton が中期インド語全般の問題として、現在語幹に基づく「規則動詞」の分類を提案し、これまで受容されている。しかし、未だ古インド語の組織に基づく見方は支配的である。

本発表では Edgerton の提案、さらに先駆的な Jacobi の分類にまで遡り、改めてパーリ語における「規則動詞」「不規則動詞」の分類を試み、パーリ語における標準化の傾向を確認する。そしてこの見方が、文献層の判定やパーリ語学習において有用であることを示したい。

3. 山口周子（京都大学非常勤講師）

緊那羅女（kiṃnarī）と餓鬼女（petī）：
Supriyāvadāna（Divyāvadāna 第 8 話）の題材をめぐる再考察

筆者は、かつて Divyāvadāna 第 8 話（Supriyāvadāna）の「部分的パラレル」として雲馬王 (Valāha/ Balāhāśvarāja) の物語（例：Valāhassajātaka (Ja 196)）をあげていた。本発表では新たに、Catudvārajātaka（Ja 439）とその類話を関連話として指摘する。これらの物語と

Supriyāvadāna は、物語の構成全体が一致するものではないが、「海を渡って財を求める商人と、彼を誘惑する女性的存在」という点において共通点が見られる。また、これらの物語との関連性が確認されたことで、Supriyāvadāna は「複数の物語に素材を求めて再編成された物語」である可能性が考えられる。

4. 藤本 晃（広島大学客員教授）
和合布薩とはなにか

佐々木 2000『インド仏教変移論』は、破和合僧の定義が変更され、新たな解釈によって再「和合」した各部派が各自の教義を発展させたと見て、和合布薩 sqmaggi_uposatha を「和合のための布薩」と解釈する。各部派の教義は異なる「破輪」のまま「破羯磨」してはいず「和合」していることを示すために行う布薩という意味である。

この新解釈は興味深いが、そう読解できる例を佐々木は示していない。そのように読解した論理的な根拠も示していない。

本発表では、和合布薩の実例を仏典から提示しつつその定義を再確認し、それによって、各部派の再和合がなされなかったであろうことを論じる。

5. 山中 行雄（龍谷大学世界仏教文化研究センター 客員研究員）
ジャータカ注釈書の歴史的展開について

南方上座部には多種多様な注釈書が伝承されており、ジャータカ注釈書も例外ではなく、カタログ等を見る限り多くの注釈書が伝えられている。しかし、その中で出版されているものは限られており、例えば比較的新層のジャータカ注釈書類が、南方上座部の文献史上どのような位置を占めるのか、そもそもどんな内容が書かれているのかについては、ほとんど知られないまま現在に至っている。本発表では、ジャータカ集成の最後を飾るヴェッサンタラジャータカの注釈に焦点を当てて、ジャータカ注釈書の歴史的展開について論じる。